

研究の目的

- 支援者ミーティングや教育的ニーズを基にした教育課程の編成及び授業改善
- 本校児童生徒における「育成を目指す資質・能力」の整理
- 就労支援における体制整理と関係機関との連携の強化

卒業10年後を目標に見据えた一貫した教育支援体制の構築

研究の方法及び成果

◆5つの重点取組◆

- ▲ キャリア教育全体計画の観点
- ▲ 個別の教育支援計画の目標達成状況
- ▲ 小・中・高の系統性・連続性

- ◎ ライフキャリアの観点を踏まえた「キャリア教育全体計画」の見直し
- ◎ 「個別の教育支援計画」の活用と評価（支援者ミーティング）の充実
- ◎ 学習評価を基にした教育課程の評価・改善

- ▲ 社会のニーズに応じた資質・能力の体系化
- ▲ 目標や内容、評価を一体とした学習計画

- ◎ 本校児童生徒における「育成を目指す資質・能力」一覧表の作成
- ◎ 各教科等における具体的な教育目標や内容、評価の関連の明確化

◆研究体制◆

- 分掌部組織再編
- 研究部2班体制
- 役割分担

- ▲ 社会のニーズに応える学習活動
- ▲ 主体的・協働的な力を育む学習展開

- ◎ 「アクティブ・ラーニング」についての整理及び実践
- ◎ 作業学習「サービス班」の創設
- ◎ 大学や企業等と連携した学習展開（デュアルシステム、外部講師）

1
キャリア教育の視点に基づく小学部段階からの一貫した教育支援

2
自立と社会参加に求められるコンピテンシー（資質・能力）の育成

3
主体的・協働的な学習活動が躍動する授業の創造

「キャリア発達を支援する教育課程及び就労支援の充実」

～卒業10年後を目標に見据えた一貫した教育支援の追求～

- ▲ 就労に向けた的確なアセスメント
- ▲ 関係機関との連携
- ▲ 地域へのセンター的機能

- ◎ 就労支援相談窓口「就労サポートすずかけ」の開設
- ◎ 「就職支援コーディネーター」の連携した校内の就労支援体制（職場開拓やアセスメント、巡回指導等）の充実
- ◎ 地域におけるセンター的機能の強化

4
就労支援の充実とセンター的機能の強化

5
進路先との移行支援及びフォローアップの可視化

- ▲ 卒業生の状況把握と関係機関との連携
- ▲ 在校生の教育への還元
- ▲ すずかけの会（同窓会活動）の運営

- ◎ 卒業後の目標や支援などについて、関係機関との情報共有・連携強化
- ◎ 就労支援に係るフォローアップ体制の構築
- ◎ 卒業生の情報管理やすずかけの会における組織的運営

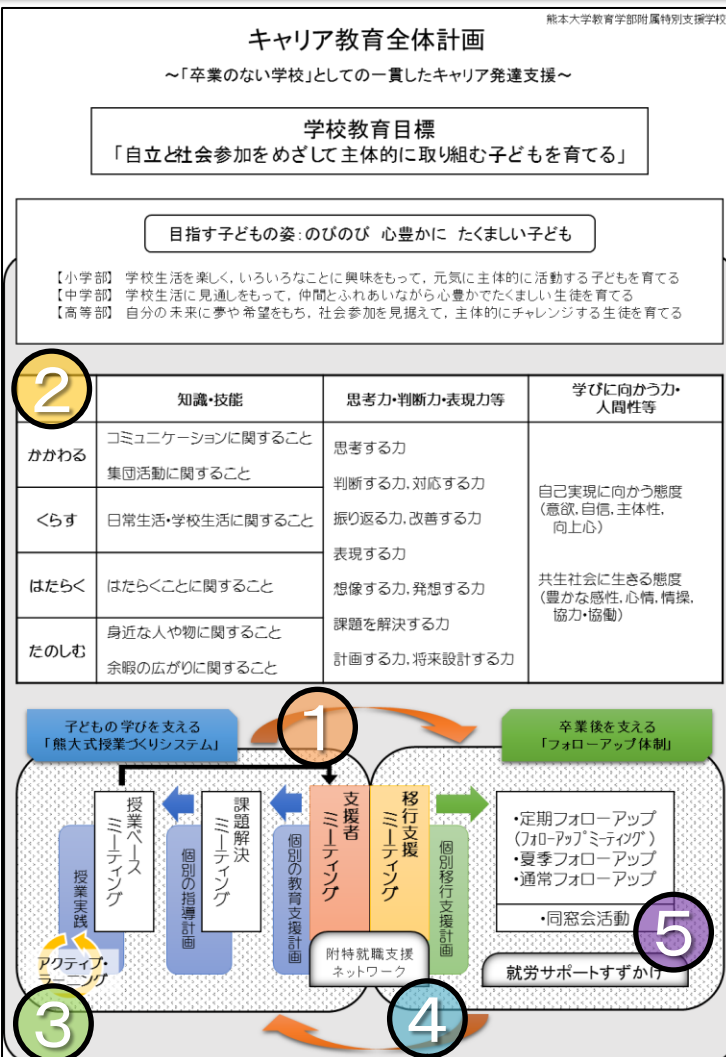
研究のまとめ

【次期学習指導要領の改訂を踏まえて】

- 「社会に開かれた教育課程」
→ 家庭、地域、関係機関との連携及び情報共有の充実
- 「育成を目指す資質・能力」
→ 体系的・系統的な指導の重要性
- 「アクティブ・ラーニング」
→ 他の学習と関連付けた「パッケージの指導」の有効性
- 「カリキュラムマネジメント」
→ 目標及び指導内容、評価を一体として捉え、授業時数との関連との明確化

◆就職支援ネットワーク会議◆

関係機関名(所属)	役職
くまもと障がい者ワーク・ライフサポートセンター	主任支援ワーカー
熊本障害者職業センター	主任障害者職業カウンセラー
熊本ヤングハローワーク	就職促進指導官
熊本県中小企業同友会	副代表理事
黒髪しょうぶ苑	苑長
アス・トライ 就労移行支援事業所	代表
チャレンジめいとく 里 ゆめくらしワークス事業部	サービス管理責任者
社会福祉法人ライン工房	総括施設長
熊本市障がい者相談支援センターじょうなん	センター長
熊本市発達障がい者支援センターみなわ	相談員
熊本県教育庁教育指導局特別支援教育課	指導主事
社会福祉法人三気の会 相談支援事業所たんぼぼ(私学特別支援相談員)	相談員
熊本大学教育学部特別支援教育学科	教授



【卒業後の充実した生活や就労に向けての一貫した教育支援】

在学中の体系的・系統的な教育活動

この往還が重要！

卒業後の状況把握や関係機関との連携した支援

本校のこれからの教育

